

2008 年度後期自治委員会総会決議

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

1. はじめに

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会（以下、学生自治会）が行うアンケートには毎年、学費に苦しむ学生の声や、課外活動や学問に関する声が寄せられます。特に今年度は大阪府からの運営費交付金が削減されたため、その影響を受けることの不安が学生の中に広がっています。これまで学生自治会は、学生と共にこのような不安を解消し、よりよい学生生活を実現させるために活動してきました。この自治委員会総会を機に、共に自治会活動について考え、共に活動していきましょう。

2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2008 年度前期自治委員会総会から現在に至るまで **"これまでの活動"** で示した活動を行ってきました。また、2009 年度前期自治委員会総会に至るまで **"これからの活動"** で示した活動を行っていきます。

【要望書交渉に関する活動】

・これまでの活動

学生自治会は毎年、学生が日頃抱く要望を大学に伝えることで大学運営に学生の意見を反映させ、学生生活をよりよいものにするために、要望書交渉を行っています。これまでの要望書交渉によって、サテライトホール・オープンスペースの利用時間延長や全講義室へのクーラー設置など、多くの要望が実現しました。このように大学に要望を伝えることで、よりよい学生生活を実現させることができます。

今年度は大阪府の財政再建の一環として、大阪府から大阪府立大学への運営費交付金が約 10 億円削減されました。また、生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパスへの移転が来年度に控えています。このような大学や学生を取り巻く環境の変化に伴って、学生が大学に対してこれまでとは異なる要望を抱くと考えました。そこで学生自治会は、学費や施設、りんくうキャンパス移転に関する要望をはじめ、学生が日頃大学に対して抱く要望を調査するために、10、11 月に要望アンケートを実施しました。

アンケートでは学費をはじめ、CAP 制や GPA などの制度についてなど、全学的な要望も調査しました。これらの要望は、羽曳野キャンパスの学生も含めた、大阪府立大学の全学生の要望として大学に伝えることで、より実現に近付くと考えます。そこで羽曳野キャンパス学生自治会にアンケート実施の協力を求めました。しかし役員の人数不足と学部の偏りのため、羽曳野キャンパス学生自治会がアンケートを実施することは困難でした。そこで、羽曳野キャンパスに支部を持つ第 48 回友好祭実行委員会に事情を説明し、羽曳野キャンパスでは第 48 回友好祭実行委員会がアンケートを実施し、羽曳野キャンパス学生自治会が要望を大学に伝えることにしました。

アンケートは教員の協力のもと、講義や研究室にて実施しました。また、アンケート配布時に全ての要望を書くことができないことや、アンケート提出後新たに要望を抱くことが考えられます。このような場合でもアンケートに回答できるよう、アンケート用紙を備え付けた回収箱を中百舌鳥キャンパス構内に設置しました。特に今年度は、より多くの学生から要望を集めるために回収箱を昨年 11 箇所から 28 箇所に増やしました。また、学生自治会や大学に対する学生の意見を集めるために常設している意見箱も回収箱として活用し、最終的に 678 枚のアンケートを回収しました。

また、アンケートや意見箱に寄せられた要望を基に要望書案を作成しました。さらに、要望書案に具体性を持たせるために各要望項目について調査を行い、要望書資料を作成しました。

・これからの活動

学生自治会は、学生から寄せられた要望の実現を目指して大学と交渉します。その中で、施設や設備などの各キャンパスに特化した要望は、各キャンパスの学生自治会が大学に伝えます。また全学的な要望は、羽曳野キャンパス学生自治会と調整した上で、中百舌鳥キャンパス学生自治会が要望書や要望書資料を用いて大学と交渉します。中百舌鳥キャンパス学生自治会が行う交渉の場には、学生センター長をはじめ、学生センターや総合教育研究機構の担当者にも出席してもらえよう調整を行っていきます。

要望書に掲載されなかった要望も学生の実情を表しています。これらの要望を大学運営の参考にしてもらうために、アンケートや意見箱に寄せられた意見をそのまま掲載した意見集を作成し、交渉の際に大学に提出します。これまではアンケートの項目ごとにまとめて意見集を作成していましたが、今年度は学部運営の参考にもしてもらうために、学部・学科ごとにまとめた意見集も作成します。また、意見内容に応じて生活協同組合にも提出します。

また3年前から、要望書に対する大学からの回答は、学生が大学の実情や見解を理解し、その場で直接質問できる公開形式を採用してきました。公開形式での回答は、学生と大学の相互理解を深めることができ、学生生活をよりよいものにする上で大変有益であると考えます。そこで、今年度も要望書に対する回答を公開形式で行うよう大学と調整していきます。しかし、年々公開回答の参加者が減少しています。この公開回答に一人でも多くの学生が参加し、大学との相互理解をより深められるよう、学生の関心を高める方法を検討していきます。

【大阪府の財政再建に関する活動】

・これまでの活動

大阪府の財政再建の一環として、大阪府立大学への運営費交付金の約10億円削減を含む、3カ年の財政再建プログラムが6月の大阪府議会で可決されました。この削減の影響を受け、大学の学費についての方針が変わり、4年前の大学法人化の際のように、学生の理解を得られないまま入学金や授業料の増額が行われることが危惧されました。

そこで学生自治会は、学生に十分な説明が行われないまま入学金や授業料などの変更が行われないよう、学生センターとの話し合いを通じて、大学側と今後の大学の運営方針について話し合いを行いました。話し合いの中で、教職員の人件費削減や産学官連携による外部獲得資金の増加などによって、削減された約10億円の穴埋めを行い、学生に直接影響が及ばないよう最大限努力するとの回答が得られました。

・これからの活動

今後は要望書交渉にて、現在の方針を維持し学費の増額を行わないことを大学に訴えます。しかし、大学の運営面での努力だけでは方針の維持が難しいことや、大阪府がさらなる運営費交付金の削減を行うことも考えられます。そこで今後の活動は、大学の運営状況や大阪府の動向を把握した上で、運営費交付金の増額や現状維持を大阪府に直接訴えることも視野に入れて検討していきます。

【りんくうキャンパス移転に関する活動】

・これまでの活動

平成21年度に生命環境科学研究科獣医学専攻がりんくうキャンパスへと移転し、獣医学科2回生以上がりんくうキャンパスにて学ぶことが決定しています。学生自治会は、これまで移転後の獣医学科2回生以上への対応について検討してきました。またこの移転に際して、大学祭やクラブ活動などの課外活動に影響が出るのが考えられます。そこで、今年度の前期に獣医学科の全学生を対象に行ったアンケートを基に、学生団体連絡会議にて話し合いを行ってきました。この話し合いの内容は自治会総合情報誌『NASCA vol.16 ～2008年度後期自治委員会総会情宣号～』を通じて発信しました。

またアンケートには、大学に対する意見や質問も多く寄せられたため、それらを大学に伝え、大学からの回答を『NASCA vol.15 ～2008年度前期自治委員会総会報告号～』を通じて発信しました。

・これからの活動

学生自治会が遠く離れたりんくうキャンパスにて中百舌鳥キャンパスと同じ活動を行うことは大変困難です。しかしアンケートには、「大学との話し合いは必要」、「学生の要望を伝えるのは大事」といった、大学に学生の意見・要望を伝えることの重要性を訴える意見が多数寄せられました。またその他にも、「学生の声を大学側は聞く義務がある。自治会には仲介役をお願いしたいと思う」のように、学生自治会の必要性を訴える意見も寄せられました。これらの意見を踏まえ、学生自治会は暫定的にりんくうキャンパスの学生に対しても活動し、また、りんくうキャンパスにおける自治組織の設立やそのサポートについても検討していきます。この活動に向けて、移転前から獣医学科の学生との話し合いを行い、移転後は話し合いを通じてりんくうキャンパスの現状の把握も併せて行っていきます。

【大学新制度改善に向けての活動】

・これまでの活動

平成17年度の大学法人化に伴い、CAP制やGPA、抽選制などの制度（以下、新制度）が導入されました。これらは、FD（Faculty Development）という教育の質の向上を目的とした組織的な取り組みの一環であり、大学の総合教育研究機構（以下、機構）という部署を中心として実施されています。

毎年、学生自治会が行うアンケートや意見箱を通じて、学生から新制度に関する意見・要望が多く寄せられます。学生自治会は、これらの意見・要望を新制度に反映させることで、より学生に有益な制度になると考え、これまで機構との話し合いを行ってきました。

また、今年度は新制度が導入されて4年目であり、3月には新制度が適用された最初の学生が卒業します。学生自治会は、このことに合わせて大学でも新制度について検討が開始される時期であると考え、9月29日（月）に機構との話し合いを行い、その内容を『NASCA vol. 16 ～2008年度後期自治委員会総会情宣号～』にて学生に報告しました。この話し合いでは、大学からCAP制やGPAに関して、学生により有益な制度となるよう検討を始めていることや、共通教育科目の抽選制によって生じていた問題に対する具体的な対応策が示されました。このことから、大学側も新制度改善に積極的であり、来年度の制度は学生の意見を十分反映したものになると考えられます。

そこで、これからは新制度に限らず、学生からカリキュラムをはじめとする他の制度について意見が寄せられた場合、必要に応じて機構との話し合いを行い、学生の意見をより反映した有益な制度となるよう活動していきます。

【情報宣伝・収集活動】

・これまでの活動

自治会活動とは、よりよい学生生活を目指して学生全員で行うものです。たとえ学生一人の力でできることが限られていても、学生全員で協力することで様々なことが実現できます。そのためには、学生が自治会活動に参加し、意見を発することが重要です。そこで、自治会活動の情報宣伝活動を行い、アンケートの実施や意見箱の設置を行ってきました。

情報宣伝活動の具体的な手段として、自治会活動に関する情報を掲載した自治会総合情報誌『NASCA』を発行し、中百舌鳥キャンパスの全学生を対象に配布してきました。また、その月の自治会活動について掲載した活動紹介ポスター『今月の自治会』を作成し、A9棟横の学生自治会掲示板や、構内各所の学生専用掲示板に掲示しました。その他、立て看板やビラ、ポスター、横断幕、B12棟（学生会館）1階の掲示板装飾、昼の情報宣伝、ホームページなどの手段を用いて情報宣伝活動を行ってきました。

また情報宣伝活動をより充実させるために、今回からA3棟やB3棟、シュライク、WEB学生サービスセンターのホームページに設置された電子情報掲示板を利用しました。加えてポスターの一部に色を塗り、遠くからでも目立つようにしました。

第60回白鷺祭本祭典では、11月1日（土）に「学生自治会に関する問題でクイズを行い、学生自治会に関して知ってもらう。また、企画を行うことで学生自治会と学生の距離を近付ける」ことを目的に『教えて、自治レンジャー！』というステージ企画を行いました。当日は多くの方が参加し、学生自治会について知ることができ、盛り上がる企画となりました。

また情報収集活動の一環として、構内2箇所意見箱を、ホームページに掲示板を設置しています。これらを通じて学生が日頃抱く意見を集め、その内容に応じて、学生自治会の活動に反映させる、大学や生活協同組合に伝えるなどしてきました。また意見に対する学生自治会や大学からの回答は、意見箱付近に設置している掲示板への掲示や『NASCA vol. 16 ～2008年度後期自治委員会総会情宣号～』、ホームページへの掲載を通じて発信してきました。

・これからの活動

ここ数年は要望アンケートの回収枚数や要望書公開回答の参加者が減るなど、学生の自治会活動に対する興味が薄れていると考えられます。この現状を改善し、学生の自治会活動への参加を促すために、引き続き情報宣伝活動を行うとともに、手段の充実を図ります。

また学生自治会は、引き続き意見箱やホームページの掲示板を用いて情報収集活動を行っていきます。寄せられた意見については、検討した上で自治会活動に反映させる、必要に応じて大学や生活協同組合に伝えるなどしていきます。意見に対する学生自治会の回答や、大学からの回答は、意見箱付近に設置している掲示板への掲示や、『NASCA』やホームページへの掲載を通じて発信していきます。

【学生団体連絡会議】

・これまでの活動

大阪府立大学に存在する11の学生団体は、学生団体間で意見や情報交換をすることや、単独の団体では解決の困難な問題に対処するために、月に一度、学生団体連絡会議を行ってきました。

4月の学生団体連絡会議にて発足した第35回七夕祭実行委員会は、「学生と地域の方々が気軽に参加でき、多くの人に楽しんでもらえる地域に根ざした夏祭りとする」ことを目的に活動し、6月27日（金）に第35回七夕祭を開催しました。学生自治会は、学生と地域住民が交流できる場として七夕祭は大変有益であると考え、学生自治会室を活動場所として提供する、実行委員として自治会役員が参加するなどの協力をしました。七夕祭当日は多くの模擬店が出店し、またB12棟（学生会館）前でステージ企画と盆踊り、小集会室でお化け屋敷が行われ、大変盛り上がりました。その他にも11月の学生団体連絡会議にて、新入生を大学全体で歓迎するために第27回全学新歓実行委員会が発足しました。

また学生団体連絡会議の場で、生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパス移転に際して、りんくうキャンパスにおける課外活動について話し合い、その内容を『NASCA vol.16 ～2008年度後期自治委員会総会情宣号～』にて報告しました。その他、大学祭やクラブ・サークルの活動発表の際に使用されるステージの老朽化について話し合ってきました。

その他学生団体は、大学と相互理解を深め、大学と協力してより充実した活動を行うために、月に一度学生センターとの話し合いを行ってきました。この話し合いの中で学部長連絡会議、教育研究会議の報告を受けて大学の状況を知るとともに、学生の意見を大学に伝えました。特に今回は、“大阪府の財政再建に関する活動”で述べた通り、大学運営についても話し合いを行いました。またこの話し合いの場で大学から、来年度の入学式終了後、会場である大阪城ホール内にてクラブ紹介の新入生歓迎イベント実施について提案されました。この提案について学生団体連絡会議にて話し合ったところ、新入生の大学生活への期待を膨らませることができるこの歓迎イベントは大変有益であると考え、提案を受けました。現在は学生自治会と体育会、文化部連合が中心となって内容を検討しています。

・これからの活動

これからも引き続き月に一度学生団体連絡会議を行い、学生団体間で意見や情報交換を行っていきます。

また、毎年3月から4月にかけての新入生歓迎時期には、多くのクラブ・サークルなどの団体が勧誘活動を行います。しかし、中には度の過ぎた勧誘を行う団体も存在するため、入学手続きやカリキュラムオリエンテーションの妨げとなり、大学や新入生の負担となることが考えられます。また“これまでの活動”で述べた入学式の会場内での新入生歓迎イベントの実施は初めての試みです。そのため来年度の新入生歓迎時期には、より一層の団体間の連携が必要になります。そこで、学生団体連絡会議を通じて団体間の連携を図り、来年度の新入生歓迎イベントを何事もなく終わられるよう、話し合いを行っていきます。また、各団体が行う新入生歓迎企画の日程調整会議を開き、来年度の新入生歓迎時期に向けて調整していきます。その他、引き続きステージの老朽化について話し合っていきます。

また第27回全学新歓実行委員会は、大学全体で新入生を歓迎し、学生生活について抱く不安の解消や、友達作りができるような企画を検討しています。学生自治会は、この活動は新入生のよりよい学生生活につながり、大変有益であると考えます。そこで、学生自治会室を活動場所として提供する、実行委員として自治会役員が参加するなどの協力をしていきます。

学生団体は大学と意見や情報の交換を行い、大学との相互理解を深め、より充実した活動を行うために、これからも学生センターとの話し合いを継続して行います。特に今回は、入学式当日の会場内での新入生歓迎イベントを実施する上で大学との連携も必要と考えます。そこで学生センターとの話し合いを通じて、当日の流れについても話し合っていきます。

【立て看板管理局】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、多くの学生団体やクラブ・サークルが立て看板を情報宣伝手段として利用しています。しかし、立て看板は扱い方を誤ると大変危険であるため、管理・運用は十分に注意して行わなければなりません。そこで学生自治会は、友好祭実行委員会や白鷺祭実行委員会と共に立て看板管理局を設置し、立て看板が安全に利用されるよう、強風時に立て看板を倒すなどの管理・運用を行っています。その他、利用団体に立て看板マニュアルを渡すと共に、立て看板利用の際の注意を促しています。また立て看板管理局では、大学祭のステージにて使用するステージバックも立て看板と併せて管理・運用を行っています。

さらに立て看板管理局では、立て看板やステージバックの危険性や正しい立て方を再確認し、管理意識を高め、より一層安全に管理・運用できるよう、管理団体を対象に講習会を開きました。

また第60回白鷺祭本祭典では、普段とは異なる場所に多くの立て看板を設置することに加え、立て看板の危険性を知らない人が多数来訪するため、より一層の注意が必要であると考えました。そこで、立て看板管理局では普段の管理に加え、本祭典中に立て看板の見回りを行う、立て看板の周りに立ち入り禁止のテープを張る、フリーマーケット出店者にビラを配布して注意を促すなどの対策を行いました。

・これからの活動

立て看板管理局では、立て看板やステージバックが安全に利用されるよう、引き続き管理・運用を行っていきます。

また、毎年3月から4月にかけての新入生歓迎時期には、普段よりも多くの立て看板が設置されるため、より一層の注意が必要と考えられます。そこで立て看板管理局では、新入生歓迎時期の立て看板の設置場所を割り振るために場所割り会議を開き、この場を活用して利用団体に立て看板利用時の注意を促し、事故の発生を未然に防ぐことを目指していきます。

【大型PA再購入実行委員会】

・これまでの活動

大型PA再購入実行委員会は、大型音響機器（以下、大型PA）の再購入を通じて、クラブ・サークル活動や大学祭などの学生の課外活動を充実させ、大学内の文化的発展に努めることを目的に活動している団体です。大型PA再購入実行委員会は、学生自治会、友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会、生活協同組合、白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1、体育会、文化部連合の7団体で構成されており、現在は第3期再購入に向けて積み立てを行っています。再購入した大型PAは、白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1 が代表して所有し、管理・運用を行っています。

大型PA再購入実行委員会では月に一度定例会を行い、機器の現状を確認し、第3期再購入が問題なく行えるよう準備してきました。また再購入する機器を選定する際には、事前に購入予定の機器を使用し、機器の性能を確認する必要があります。そこで第60回白鷺祭本祭典の際に、業者から数種類の機器を無料でレンタルし、その性能を確認しました。また、大型PAの利用団体の音響面でのサポートに対する希望に合わせて購入機器を選定する必要があります。そこで、これまでのサポート時の感想や意見を集めるために、利用団体にアンケートを実施しました。

・これからの活動

大型PA再購入実行委員会では引き続き月に一度定例会を行い、機器の現状を確認し、アンケートの結果をもとに再購入する機器を選定するなど、第3期再購入が問題なく行えるよう準備していきます。

また、第3期再購入までに機材の故障が起こり、修理や新しい機材の購入が必要になる可能性があります。そのような場合には定例会を通じて検討し、大型PA再購入実行委員会の積立金を使用する、後援会に援助を求めるなど、柔軟かつ早急に対策を講じていきます。

【全日本学生自治会総連合】

・これまでの活動

全日本学生自治会総連合（以下、全学連）とは、全国の学生同士の交流と、学生の要求実現を目指して活動している、全国の学生自治会の連合組織です。全学連への加盟については、全学連についての情報提供を学生に十分に行い、意見を募った上で検討する必要があると考え、学生自治会は全学連への加盟を保留としてきました。

これまで学生自治会は、全学連の情報収集のために全学連の活動に参加してきました。今回は7月4日（金）、5日（土）に行われた国会要請と学費・教育費シンポジウム、9月13日（土）から15日（月）にかけて行われた自治会セミナーに参加し、その内容を『NASCA』を通じて学生に報告しました。

また、前期に実施したアンケートに引き続き、『NASCA vol. 15 ～2008年度前期自治委員会総会報告号～』に意見用紙を付属させ、学生から全学連への加盟について意見を集めました。

【工学部教授会執行部との話し合い】

・これまでの活動

平成17年度の法人化の際に、工学研究科長選挙における学生投票制度が廃止され、学生の意見が工学部の運営に反映される機会が失われました。そこで、学生自治会は廃止された学生投票制度の代わりに、工学部の運営に学生が関わるができる方法を模索するために、昨年度まで工学部教授会執行部との話し合いを行っていました。

これまで3回にわたる執行部との話し合いでは、学生投票制度の代わる制度について深く議論することができませんでした。そこで今年度は話し合いを行わず、学部運営に学生の意見を反映させる方法を独自に検討することにしました。

またこれまでの話し合いを通じて、学生が研究室を訪れ、直接意見を発することを教員が望んでいることや、学生が研究室への訪問を敬遠していることが分かりました。このことから、教員と学生の距離を縮めることで直接教員に意見を発し、学部運営に学生の意見を反映させることができると考え、その方法を検討してきました。

【工学部教員紹介冊子】

・これからの活動

学生自治会は「工学部教授会執行部との話し合い」で述べた通り、学生と教員の距離を縮める方法を検討してきました。そして、学生が教員を訪れることを敬遠しているのは、学生と教員とが関わる機会が少ない、なじみのない教員を訪れることを敬遠しているためと考えました。そこで、「冊子を通じて工学部の学生に教員を紹介し、親しみを持ってもらう。また、研究室に興味を持ってもらうことで、気軽に研究室を訪れ、日頃から抱く意見を教員に直接伝えられるようにする」ことを目的に教員紹介冊子を作成します。

この冊子を作成するにあたり、各教員の人柄や研究内容、研究室の行事などを聞くアンケートを、研究室に配属された学生や大学院生、教員を対象に1月に実施します。また、この冊子は来年度の4月から5月にかけて、工学部の研究室配属前の1回生から3回生を対象に配布します。

【生命環境科学部自主入学式】

・これからの活動

学生自治会は毎年生命環境科学部自主入学式を実施し、生命環境科学部の新入生を学部全体で歓迎してきました。昨年度の参加者からは「学科の授業の内容やこれからどんなことをするのか知ることができて良かった」「大学の生活について、色々とおわかったことがよかった」といった声が寄せられました。このことから、入学前に同学年や上回生の知り合いを作ることができ、大学生活について知ることのできる自主入学式は、大変有益であると言えます。そこで今年度は、「新入生同士や新入生と上回生との交流の場を設け、友人や上回生の知り合いができることで、大学生活のスタートを円滑に行えるよう、大学生活に対する新入生の不安を軽減する。上回生から学部・学科特有の講義などに関する体験談を聞くことで、これからの大学生活の見通しを立てる参考にしてもらう。また、新入生の意欲向上につなげるため、研究生に学生視点の研究室の紹介をしてもらう」ことを目的に、生命環境科学部自主入学式を行います。

実施にあたり、学部全体で新入生を歓迎するために、農学部・生命環境科学部の学生から実行委員を募り、有志の学生と協力して活動します。また、体験談紹介などを行うチューターも農学部・生命環境科学部の学生から募集します。これらの募集の情報宣伝は、冬期休暇後に開始します。

【人間社会学部新聞】

・これまでの活動

人間社会学部は4年前に設立された学部であるため卒業生が存在せず、就職や大学院への進学など、進路に関する情報を学生が得ることが難しい状況です。また、コース分けやゼミなどについて、教員が学生に提供する情報に差があります。そこで学生自治会は、「より有意義な学生生活を送ることができるように、人間社会学部の学生に向けて、情報を必要な時期に合わせて提供する」ことを目的に人間社会学部新聞『人社' s!』^{ジンジャーズ}を作成し、人間社会学部の学生を対象に配布しました。今回作成した『人社' s!』^{ジンジャーズ}には、学科ごとの資格科目の時間割表を掲載しました。

・これからの活動

今年度の卒業生は、人間社会学部の最初の卒業生です。そこで今後の『人社' s!』^{ジンジャーズ}には、人間社会学部の学生の就職先や大学院への進学率など、進路に関する情報を掲載します。その他、引き続き人間社会学部の学生に有益な情報を発信していきます。現在は前期の資格科目の時間割表や、今年度の3月3日（月）に人間社会学部教育運営委員会（FD部会）が行ったアンケートに対するFD部会の回答の掲載を検討しています。

3. おわりに

学生は大学の構成員であり、大学運営について意見を発することで、よりよい学生生活を実現することができます。しかし、来年度から開設されるりんくうキャンパスには、学生自治会のように大学に学生の意見を伝える団体は存在しません。そのため、中百舌鳥キャンパス学生自治会がりんくうキャンパスの学生も暫定的に活動対象とします。このことをきっかけに、中百舌鳥・りんくう両キャンパスの学生の自治会活動に対する関心を高め、より充実した自治会活動が行えるよう努めていきます。どのような些細なことでも構いませんので、学生自治会に積極的に意見をお寄せ下さい。これからも学生自治会と共に活動していきましょう。